

よえもん



論語から学ぼう
(記念館の玄関前に掲示しています)



《 第76号 》 (2021年12月発行)

令和3年度展示より
「藤樹書院」

シリーズ
よえもん



藤樹書院は、藤樹先生と弟子たちが村の人達と力を合わせて建てられましたが、先生は、持病のぜんそくが重くなり、このあとわずか半年後、慶安元年（1648）8月25日に亡くなってしまいました。

藤樹書院は、寛政9年（1797）、光格天皇から「徳本堂」という名をいただきました。現在の藤樹書院の正面には、当時の書院長の志村周助が字を写し取り彫刻した額が、かかげられています。また、明治40年（1907）には、明治天皇から、藤樹先生のりっぱな学徳に対し、「正四位」という高い位をおくられました。これは、国から出される位で、正、従一位から、それぞれ八位まで十六段階に分かれています。

論語「里仁第四之十五」

書 淵田瑞穂さん

夫子の道は
忠恕のみ

孔子は自分自身の生き方において、ひとつのことを貫いているのだと門人の會子に話しました。他の門人がその意味を會子に訪ねたところ、「先生（孔子）の生き方（道）は、忠恕（まごころとおもいやり）を貫くのみです。」と答えました。

今、受験や就職など将来の進路に向けて、大切な時期を過ごしている方もおられると思います。これまでの生き方を振り返り、これからどのように生きていこうか、自分の目標について見つめなおす機会にはしてはいかがでしょうか。



藤樹書院にまつられた神主（位牌）と「徳本堂」の額



「徳本堂」一条忠良書



* 記念館だより *

11月後半から中江藤樹記念館屋根改修工事のため皆さまには何かとご不便をおかけしています。危険防止のため建屋周囲を覆っていますので「記念館、閉まっているの?」と尋ねられる方も多いのですが、屋外工事のため開館しています。現在、「史跡指定100周年記念藤樹書院跡」を開催中です。藤樹の生家南側に建てられた藤樹書院跡には多くの方が訪れ当時を偲んでいます。書院跡南側に良知館があり、年中無休で職員さんが藤樹や藤樹書院のことを詳しく説明くださいます。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330